

第7回広島大学言語学会総会講演及び研究発表要旨

「狐物語」の写本について

原 野 昇

「狐物語」の写本は今日までのところ14の写本と10数個の断片が見つかっている。これらの写本は、それが含む枝篇(Branche)の数やその並べ方によって3つのグループ、すなわち α 、 β 、 γ に分けられる。どの写本がどの枝篇とどの枝篇を含んでいるか、またそれらをどの様な順序で配列しているかは、H. Böttner; Studien ^{zu} dem Roman de Renart und dem Reinchart Fuchs. I Heft, Die Überlieferung des Roman de Renart und die Handschrift O (Strasburg, 1891) p. 6 の表が非常に明瞭に示している。 α 群の写本は収録枝篇の数は少ない(15~18)か、最も古く、最も広く拡がっていたと思われ、6つの写本(A, D, E, F, G, N)が現存している。 β 群の写本はB, K, Lの3つで、 α 群の枝篇中2, 3を除いて全て含み、更に新しい枝篇が6, 7篇加っているので枝篇の数は合計20~21となっている。残る γ 群の写本(C, N)は α 群、 β 群の両方の特徴を備えており従ってこれら2群のものより時代が下るとみてよいであろう。枝篇の数は22~23である。その他、上のどの群にも分類しがたいいわば孤立した写本がある。H, IおよびOがそれである。Oは γ 群に入れる人もあるが(ex, R. Bossuat) γ 群のCとMの非常によく似た、しかもそれぞれ個性をもった兄弟写本に比べると、Oはやはり γ には属しないとみる方が適当と思われる。

以上の写本はパリのBibliothèque Nationaleに6つ(A, B, C, G, I, O)。Bib. de ^{Paris} ~~Paris~~に2つ(L, H)、Chantillyの美術館に1つ(K)。イギリスには、ロンドン(E)オクスフォード(D)、チェルテンハム(F)と計3つ、イタリアには、ローマ(N)、トリノ(M)と2つ保存されている。(断片はその他ベルギーなどに保存されているものもある)。しかし α 群、 β 群、 γ 群のそれぞれの代表的写本A, B, Cは皆、パリのBibl. Nationaleにある。Aは13世紀写本されており、B, Cは13世紀ないし14世紀初頭のものを推定されている。

中世の作品を言語的に研究する場合には、これらの写本1つ1つが重要な意義をもってくる。何故なら、それらの写本の間には、写字生の写し間違いを含め、様々な異同があり、それぞれが言語的事実(資料)であるからである。